

“先輩からのメッセージ—仕事と私事—”欄の連載にあたって

Message to Young Scientists

Asahi AToday

玄冥 崑田

栗原和枝

Kazue KURIHARA

「高分子」に“先輩からのメッセージ—仕事と私事—”欄が連載されることになりました。これは、昨年5月の年会男女共同参画シンポジウムのアンケートで、会員からの希望の多かった活動です。連載開始の機会に、高分子学会の男女共同参画と、当欄の趣旨を紹介します。

高分子学会では、昨年度、学会の男女共同参画活動を全体の会員に見えやすくし、より推進するために男女共同参画委員会を設置しました。この1年間、年会でのシンポジウム開催、ホームページの開設（是非一度ご覧ください）、研究会の共催などを行い、また学協会連絡会の活動への参加も積極的に行ってきました。

“先輩からのメッセージ—仕事と私事—”欄は、「高分子」の読者である研究者・企業人そしてその予備軍の学生の皆さんの研究や仕事そして進路選択の参考になるよう、産官学などさまざまな機関の幅広い年齢層の先輩からの男女共同参画の視点を入れたメッセージを掲載するものです。仕事と私事というのは、ワークとライフの意味です。いかにモチベーションを保ちつつ研究・仕事を続けるか、生き生きと暮らすにはなど、幅広い観点からの先輩のメッセージを掲載する予定です。

会員の皆さんが、研究者・技術者などの立場で活躍されるために、高分子学会がより良い足場を提供できるよう、男女共同参画委員会もお手伝いしたいと考えています。企画についてのご意見・ご提案を歓迎します。

委員会の発足に当たり、目標を、正会員の女性比率を倍増することとしました。この1年間で高分子学会の女性正会員は以前の2倍のペースで増加し（計約610名、2008年2月現在）女性比率7%に近づいてきました。皆様のご協力に感謝しています。しかし、学生会員（19%、約400名）に比べ、正会員の女性比率は依然としてたいへん低い現状ですので、今後の活動のためにも、女性の正会員の増加にいっそうご協力いただくようお願いいたします。

● ● ● 男女共同参画への期待 ● ● ●

高分子学会には「男女共同参画委員会」が設置され、この課題についての議論を深め、支援や活動も展開されている。また日本学術会議でもジェンダー問題が議論されている。このたび、同委員会からのご提案を受け、時宜を得た企画として本誌での男女共同参画に関する連載を始めることとなった。

男女共同参画は、社会全般はもとより、産官学における永遠の課題と言えるかもしれない。この認識は、男女機会均等法を意識した、ある種の義務感から発したというより、現実に共同参画に際して、それぞれの資質と適性を尊敬しあうパートナーとして、真摯に手を携えていこうとする意志の表れと考えている。言われて久しいが、「共同参画」は男女が「同一」であることを意味しない。その意味でも、真の共同参画とはなにか、そのために我々や学会は何をなすべきか、このような建設的で「暖かな」意見交換と実践が、本連載を通じて会員諸氏のあいだに生まれることを期待したい。

澤本光男
第29期・高分子学会会長



高分子学会の男女共同参画委員会メンバー：前列左より 吉江尚子（東大）、栗原和枝（東北大）、野崎京子（東大）、華房実保（三菱化学）、後列左より新倉謙一（北大）、前田瑞夫（理研）、増田 優（お茶大）、三原隆志（高分子学会）

（2007年12月）

高分子学会男女共同参画委員会委員長
東北大学多元物質科学研究所・教授